



Utako Toyama(遠山歌子、大阪府出身)

Utako Toyamaは、ロンドンを拠点に活動する日本人作曲家、ボーカリスト、音楽教育者、国際文化プロジェクトリーダー。文化や言語の壁を越えてアーティスト、学生、地域をつなぐグローバル音楽プロジェクト「SkyBridge」の創設者兼芸術監督であり、90か国以上のアーティストが参加する世界的な取り組み「Songs for World Peace」の共同創設者でもある。

奨学金を得てバークリー音楽大学に入学し、コンテンポラリー・ライティング & プロダクション科を優等(cum laude)で卒業、Martin Luther King Artistry Awardを受賞。在学中に「We look different, we ALL smile the same(見た目は違っても、笑顔はみんな同じ)」をスローガンにSkyBridgeを立ち上げ、オリジナル楽曲、文化交流、共同演奏を通じて世界中のミュージシャンをつないできた。グラミー賞受賞者のヴィクター・ウッテン、マーク・ウォーカーを含む、50の国と地域のミュージシャンと共演している。

卒業後、アメリカとイギリスの両国で、卓越した才能を持つ人物に与えられるビザを取得。アメリカ、日本、イギリス、ケニア、ウガンダ、クロアチア、リトアニアなど世界各地で演奏し、ボストン日本祭り、ボストン・グリーンフェスト、バークリー・パフォーマンス・センター、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)などに出演してきた。

2020年、新型コロナウイルスの世界的流行のさなかにSongs for World Peaceを共同設立し、世界中のミュージシャンに、母国語で平和の歌を発表することを呼びかけた。このプロジェクトはその後、UN Womenサンフランシスコ支部が主催するGlobal Voices Film Festivalで取り上げられ、Utakoはインタビューを受け、SkyBridgeの楽曲「We Declare Peace」のミュージックビデオが上映された。2022年には、ひろしま国際平和文化祭において、UtakoとSkyBridgeが、ひろしまアワード音楽部門の初代海外受賞者に選ばれた。

2023年、Songs for World Peace、バークリー音楽大学、平和首長会議が協力した広島市の委託事業を通じて、毎年平和記念式典で歌われる「ひろしま平和の歌」の英語版制作に携わった。同年、EU・ジャパンフェストの支援を受けてリトアニアで開かれた「Japan Days in Kaunas WA」にSkyBridgeとして出演し、日本とリトアニアの学生たちと共演した。

2025年には、大阪・関西万博でハイブリッド形式の「Global Choir for World Peace」を発表し、約30か国のミュージシャンをオンラインと会場でつないだ。現在はOGC(Online Global Co-performance Programme)を開発している。学生や地域の人々が共に創り、共に演奏し、一度きりのイベントで終わらずオンラインでつながり続ける、ワークショップ型のモデルである。

SkyBridge、Songs for World Peace、OGCのすべてに共通するUtakoの目標は、音楽、共創、そして長く続く国際的な友情を通じて、国境を越えてアーティスト、学生、地域をつなぐことである。

主な国際プロジェクトと公演



上段左: EU・ジャパンフェストの支援による「Japan Days in Kaunas WA」にSkyBridgeとして出演(リトアニア、2023年)

上段右: 大阪・関西万博で「Global Choir for World Peace」を指揮 (Songs for World Peace、2025年)



中段左: SkyBridgeの異文化交流音楽ワークショップを指導(日本、2025年)

中段右: 「ひろしま平和の歌」英語版ミュージックビデオより(2023年)



下段左: ケニアでヴィクター・ウッテンとSkyBridgeとして共演(2017年)

下段右: 広島市役所にて、松井一寛 広島市長(平和首長会議会長)と(2023年)